

# とびっくす TOPICS ～in海外～

2008.4.13 外二-007

国際業務室 内線3701～3715

011-233-1093

## 「瀋陽北海道人会」

瀋陽には「北海道人会」があります。2006年8月に当事務所が開設された時、瀋陽日本総領事館の森領事(当時)と一緒に立ち上げました。その主な活動は「ラム肉ジンギスカンパーティ」です。瀋陽市内の日本式焼肉店「King 大志」の協力で、サッポロビール園さながらの「ジンギスカン食べ放題サッポロビール飲み放題」を毎月開いています。

瀋陽には質のいいラム肉が豊富で、野菜もたくさんあります。ラム肉はビール園の「生ロースラム肉」に匹敵するほど上質です。サッポロビールは中国でもつくっています。中国名は「三宝菜(サンパオルウ)」と言います。何でも揃う大都市瀋陽ですが、「ジンギスカンのたれ」だけは日本からの持込みです。ちなみに今月は「ソラチ特撰成吉思汗のたれ」です。この北海道産のたれが好評で中国の人たちにもウケています。

「これで北海道の形をしたジンギスカン鍋があれば完璧なんだけどなあ・・・」などと北海道の地に思いを馳せながら、瀋陽の北海道人たちはジンギスカン鍋を囲んでいるのです。

瀋陽事務所：正司 毅

## 「札幌市北京事務所への2年間の出向を終えて」

2年間という短い間でしたが、隣の国から北海道を眺め、多くのことに取り組み、また多くのことを学びました。北海道は中国大陸へどのようなものを誰を対象に売り物としていくべきか。当室で取り組んできたことはまず観光事業と食品食材の輸入促進でした。他にもIT分野でのオフショア開発の試み等々色々チャレンジし、商習慣や考え方の違いから事業が暗礁に乗り上げそうなこともありましたが、ある一定の成果も得ることができました。反対にこれから行っていきたい事業等々が見えてくるとともに、行政という仕組みの中で行うことの限界も理解できたように思います。4月から銀行業務へ戻りますが、当行の取引先へ中国ビジネスをどう結び付けていくか、この中国で学んだ経験と人脈を活かし邁進していきたいと思います。2年間ありがとうございました。

北京事務所：坂口 秀之

## 「上海万国博覧会」



(「日本館」の完成予想図)



(建設中の会場(中央の建物は「中国館」))

上海万国博覧会は2010年5/1から10/31まで開催されます。

テーマは「よりよい都市より良い生活」。環境面を含めて、決して「よい」とは言い難い上海でこうしたテーマに皮肉なものを感じるの私だけでしょうか。

左の写真は万博会場に建設される総工費130億円の「日本館」の完成予想図です。屋根のくぼみに雨水を貯め、空調などに利用するという凝ったものです。

ただ、日本には職も家もなく困窮している人が大勢いる、このご時勢にこの金額には疑問を感じずにはいられません。

世界的な景気悪化のなかでも中国は比較的「影響は軽い」と言われます。上海ではこうした「万博関連」(この他に、道路整備や地下鉄建設など)の工事のため、至る所で道路が掘り返されています。また、街を歩いていても必ず視野のどこかにビル建設のクレーンがあるといった状況で「万博が経済を下支えしている」と言っても過言ではありません。

北陸銀行 上海事務所：南 敏律